

第51回キヤンサーボード開催通知

日時：平成22年6月15日（火）18：00-19：00

場所：附属病院4階第1会議室

テーマ：化学療法誘発悪心・嘔吐のメカニズムと治療最前線

問合せ先・がんフロ 川上(内線2623) 経営企画 薮ヶ久保(内線2807)

第50回は、53名の方にご参加いただきました。

遺伝子工学の進歩によるハイテクワクチン

第50回キヤンサーボード報告 子宮頸がん予防ワクチンについて

平成21年10月16日

日本産科婦人科学会・日本小児科学会・日本婦人科腫瘍学会

ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチン接種の普及に関するステートメント

1. HPV ワクチン接種が広範に行われることにより、将来、わが国における子宮頸がんの発生を約70%減少させることが期待できる。このことはわが国の女性とその家庭に幸福をもたらすだけでなく、子宮頸がん治療に要する医療費を大幅に抑制することにつながる。
2. 11～14歳の女子に対して優先的にHPV ワクチンを接種することを強く推奨する。なお、接種の費用については公的負担とすべきである。
3. 11～14歳でワクチン接種を受けることができなかった15歳～45歳の女性に対してもHPV ワクチンの接種を推奨する。本接種についても何らかの公的支援が望まれる。
4. 現行のHPV ワクチン接種を行っても、子宮頸がんの発生をすべて予防できるわけではない。したがって、子宮頸がん検診は今後もきわめて重要であり、検診受診率の向上を目指した啓発が必要である。また、ワクチン接種者のフォローアップ体制が構築されることが望ましい。

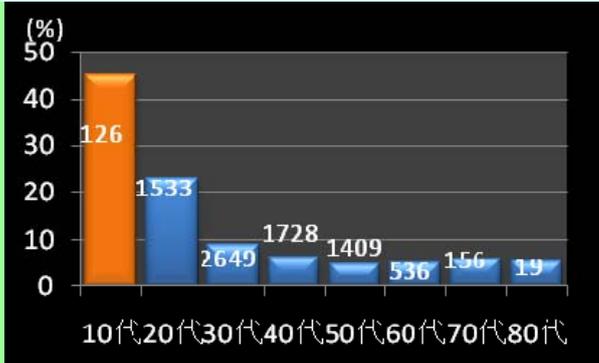
どうして若い女性に子宮頸がんが増えているのか？

- ・ヒトパピローマウイルス(HPV)の感染機会の増加
- ・多くの若い女性が子宮温存手術が可能な早期がんや前がん状態を発見できる検診を受けていない



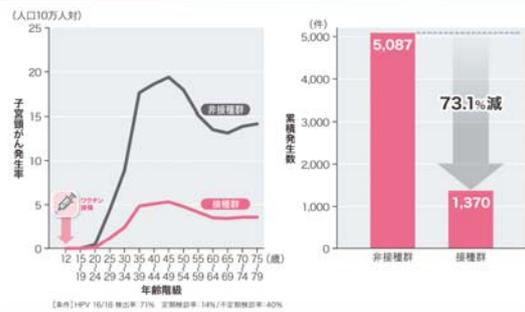
注射を打つ時
痛いよね。
でも大切なんだよね。

日本人の一般女性におけるHPVの検出率（年代別）

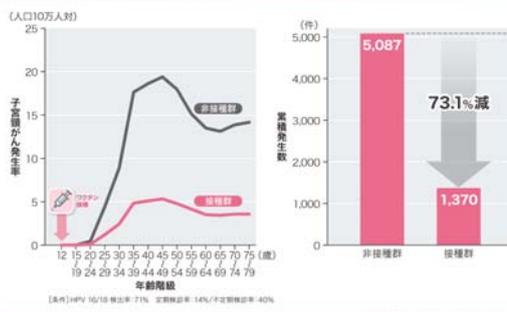


対象：2003年10月～2004年5月に石川県に在住した一般女性8,156例(グラフ上の数字は、各年代の人数)

12歳女児に対して子宮頸がんワクチンを接種した場合、子宮頸がんの発生数を約4,000件(73.1%)減らす。



12歳女児に対して子宮頸がんワクチンを接種した場合、子宮頸がんの発生数を約4,000件(73.1%)減らす。



Harper D et al. Lancet 2004; 364: 1757-65

ワクチン接種後7日以内に注射部位に疼痛93.4%
腫脹34.3%
発赤35.6%
の症状出現。

